

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	砂防(通常砂防)		路河川名等	(砂)滝の沢	
事業毎の通番	9	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	下大岡(しもおおおか)
事業目的	滝の沢は第三紀層の脆弱な地質にある土石流危険渓流で、平成16年の台風及び平成18年の梅雨前線豪雨では山腹崩壊が発生した。流域状況は渓岸浸食や山腹崩壊が進んでおり、土石流災害をもたらす危険性がある。このため砂防えん堤1基、堆積工1箇所を増設することにより災害防止対策を行い、下流の人家3戸と高齢者生活福祉センター及び市道を保全するものである。				
しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)	事業実施の根拠法令等	砂防法		
関連する事業、計画等					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家3戸、高齢者生活福祉センター(要配慮者利用施設)				
着手年度	H29年度	事業期間	6年	事業費(千円)	財源内訳(千円)
完成年度(見込み)	H34年度	費用対効果	2.7	国庫	その他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤1基 堆積工1箇所			340,000	170,000 153,000 17,000
年度事業内容(主な工種)	測量・用地補償			10,000	5,000 4,500 500
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家3戸、高齢者生活福祉センター(要配慮者利用施設)の保全			
	間接的効果(定量的・定性的)				
評価の視点	必要性	【保全人家戸数】3戸 【保全公共施設】高齢者生活福祉センター(ことぶき荘)、市道 【要配慮者利用施設】高齢者生活福祉センター(ことぶき荘) 【避難場所】なし	評価	A	
	重要性	【災害履歴】H18土石流出 【交通影響】保全対象に市道あり 【位置付け】地域防災計画に位置付けあり(土石流危険渓流I)	評価	B	
	効率性	【費用対効果】B/C=2.7 【早期効果発現】事業期間:6年間 【工法等比較検討】工法検討実施済み 【総合調整】関係機関および地元との調整済み	評価	A	
	緊急性	【地形地質】第三紀層 【流域植生】放置林 【平均渓床勾配・土砂整備率】勾配:14° 整備率:60% 【危険地区】土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域あり	評価	B	
	計画熟度	【情報共有】説明会実施済み 【地域要望】地元および市から堰堤施工の要望あり 【合意形成】事業目的について合意形成が図られている 【住民参加】ハザードマップ整備予定	評価	B	
	部意見	当該渓流の保全対象には、人家や要配慮利用施設が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要である。	行政改革課意見	流域内には不安定土砂が堆積し、今後の降雨等により土石流出の恐れがあり、保全対象に人家、高齢者生活福祉センターがあることから、必要性が認められる。	評価結果
				○	B

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺付) ことぶき荘

【整備の必要性がわかる状況写真等】

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	滝の沢は、土石流危険渓流Iであり、上流域には不安定な土砂が堆積しており、豪雨時などには土石流の発生が懸念されている。保全対象には人家3戸の他、要配慮者利用施設である、高齢者生活福祉センター(ことぶき荘)があるため、早期対策が必要である。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	長野市および地元からさらなる流域整備の要望がある。
③事業説明等の経緯	要配慮者利用施設である、高齢者生活福祉センター(ことぶき荘)が警戒区域内に立地していることから、事業の必要性は極めて高く、事業目的に関しては地域の合意形成が図られている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	土砂災害防止法に基づくソフト対策の取り組み
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	今後周辺環境への影響を抑えることも観点に、設計および工法の検討が実施済みである。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により、渓流の安全度が高まり民生の安定が図られ、地域防災力の向上が期待される。
⑦その他	

事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36.502923
	東経:E 137.963389